

様式1

令和元年度 山口県立岩国工業高等学校 学校評価書 校長(山崎 啓道)

1 学校教育目標							
<p>力と勢い、そして探究心を育む岩工づくり～「一所懸命」～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力=工業高校としての専門性を重視した、基礎的・基本的な学力向上と確かな技術力の習得 ・勢い=ものづくりや特別活動への積極的な取組を通じた、主体的な将来設計能力と豊かな人間性の育成 ・探究心=将来の夢や目標をしっかりと定め、変化の激しい時代に対応し、理想を実現するために努力し続ける態度の醸成 							
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)							
<p>①(学校全般)コミュニティスクール導入3年目の取組として、「4科連携及び岩国市行政と一体となったものづくりによる地域貢献」をより一層充実・発展させる。また、様々なPTAの諸行事での活動や学校行事等を通して、家庭や地域企業など社会と連携し生徒の成長を図りたい。</p> <p>②(学習指導)アクティブ・ラーニングやICTを活用した授業をより推進し、研修の機会を設け、教員の授業力及び生徒の理解力・思考力の向上を図りたい。また、機会あるごとに資格取得の意欲を喚起し、様々な資格に積極的に挑戦するなど、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化につなげたい。</p> <p>③(生徒指導)教育相談的な指導が必要なケースが多くなったためより一層組織的に対応し、SCや他の関係機関との連携を深めながら、生徒の困り感の解消に向け支援を充実させたい。</p> <p>④(進路指導)引き続きキャリア教育として行っている講話、インターンシップ、PTA研修会、個人面談等の取組を行い、職業観や勤労観の醸成に努め、ガイダンスや求人開拓、マッチングを強化し、地元就職する生徒の増加を図りたい。</p> <p>⑤(特別指導)部活動においては、各部活発に活動し成果を上げているが、教職員や生徒の健康面等を考慮し、引き続き部活動時間の短縮を図る。また、日米交流、ボランティア活動等も積極的にを行い、地域との関わりを深めながら地域貢献を図りたい。</p> <p>⑥(健康管理)体力向上及び健康の維持・管理を図る態度を育成する。また、将来を見据えて運動に親しむことができるように、資質や能力を育てられるよう様々な場面での取組を行う。</p>							
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の向上、専門性の向上に向けた学習習慣の定着(生きる力の基本) ○ 教員の授業力の向上への取組と学習指導体制の整備(学び続ける教員) ○ 望ましい職業観・勤労観の育成をめざす系統的キャリア教育の推進(職業人としての基盤形成) ○ コミュニティスクールの推進による地域社会との連携推進(地域とともにある学校) ○ 教職員のワーク・ライフ・バランス(ワーク・ライフ・インテグレーション)の実現(持続可能な働き方) 							
4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価	
学校全般	開かれた学校づくりや地域との信頼関係を構築するとともに、地域や保護者と共に生徒を育て、生徒の心の醸成を図る	学校開放週間の設定、岩工HOTニュースの配布、保護者へのメール発信、HPの充実など、情報発信をさらに充実させると共に、生徒・保護者アンケートを実施し結果を公表する。	4:情報発信等が十分におこなわれ、信頼関係が大きい構築できた。 3:情報発信等がおこなわれ、信頼関係がある程度構築できた。 2:情報発信等はあまりおこなわれず、信頼関係があまり構築できなかった。 1:情報発信等も十分におこなわれず、信頼関係が構築できなかった。	3	保護者を対象とした毎月の行事予定の配信や緊急時のメール発信。生徒の活躍の様子を紹介した「HOTニュース」の近隣中学校への配布や地域住民(地元2自治会への回覧、公民会への掲示など)への情報提供など、いろいろな方法で外部への情報発信を行った。また、保護者、生徒対象のアンケート結果を校内で周知し、保護者にも公表している。保護者や地域とある程度の信頼関係を確立することができた。	・生徒が授業などに熱心に取り組んでいる様子やよくわかる。 ・生徒は運動会などの学校行事に真剣に取り組んでおり、生徒が輝いて見える。	3
	保護者や地域の協力を得ながら面接指導や交流授業などの取組を充実させるとともに、外部関係機関との連携もさらに深める。	4:協力の取組が十分におこなわれ、生徒の心の醸成が大きいできた。 3:協力の取組がおこなわれ、生徒の心の醸成がある程度できた。 2:協力の取組がおこなわれたが、生徒の心の醸成には至らなかった。 1:協力の取組ができず、生徒の心の醸成ができなかった。		4	PTA役員や地域の方々や協力して取り組んだ、面接指導や交流授業では生徒や保護者からとても良い評価を得ている。また、岩国市福祉協議会と連携し「錦帯橋を車いすで渡るプロジェクト」にも参加するなど、地域と連携したものづくりも行うことができた。	・「錦帯橋を車いすで渡るプロジェクト」において、車いすの車輪の加工などにも熱心に取り組んでもらっている。 ・コミュニティスクールなどを活用して地域とともに生徒を育てることも大事。	4
学習指導	基礎学力を向上させるための学習指導の体制を作っていく。生徒が豊かな心を持って学習に向きあえるようにサポートして行く。	H28年から導入した評価法等についての検証を行う。引き続き朝学を支援する方策を考えて行く。家庭学習の習慣を作る方策を継続する。授業状況等の情報交換を活発に行い、生徒が豊かになって学習に向かえるようにサポートして行く。	4:評価法が検討され、その効果について検証が行われた。家庭学習が行われるとともに、朝学が充実し、豊かな心で授業に向かう姿勢ができた。 3:評価法が検討され、効果についての検証もある程度行われた。朝学が取り組まれ、豊かな心で授業に臨める兆しがあった。 2:評価法が検討されたが、効果についての検証は行われなかった。家庭学習の取り組みに変化はなく、授業に取り組む姿勢も変わらなかった。 1:評価法について検討することができなかった。学習に対する意欲が後退した。	2	評価法の改善について、意見が出され委員会を検討を重ねた結果、来年度より改定することが決まった。 2学期の中間考査の欠点が多く、改善しようとしたが、残念ながら昨年より欠点数が増加した。 学力に難がある生徒も入学しており、支援が必要である。家庭学習の習慣化も引き続き課題である。	・欠点保持者が多いようであるが、今後、家庭学習も習慣化できたらよいと思う。 ・学力の低下が考えられる力の低下につながらなければよいと思う。	3
	基礎テスト等で学力の底上げを図る。業者模試等の利用を考える。資格合格等の学習目標を持たせる。	4:基礎テスト等が有効に利用され、その結果取り組みがよくなり、学習意欲が強まった。また資格試験に対する意欲も高まった。 3:基礎テスト等が利用され取り組みがよくなり、学習意欲も高まった。資格試験に対する意欲も変化がなかった。 2:基礎テスト等が有効に利用されず、取り組みが悪かった。資格試験への取組みも後退した。 1:基礎テスト等がきちんと取り組まれなかった。資格試験への意欲も低下した。		3	基礎テストは定期的実施され、生徒の学力向上に役立っていると思われる。本年度より1・2年生に業者テストを導入しており、今後学力の検証に役立っている。資格試験ではよい結果を出している者もいる。	資格取得にはよく取り組んでいると思う。	3
生徒指導	生徒指導	・月間目標を設定し、問題行動が起こる前の指導を強化する。特に毎週行われる学年会でいじめ認知調査を実施し、早期発見を図る。 ・進路指導部と連携して卒業するまで内定後も、社会人としての規範意識の高揚を図る生徒指導体制の充実 ・登下校指導を計画的に実施し、交通事故防止の指導を徹底していく。	4:生活指導、交通指導が十分におこなわれ、問題行動、交通事故が減少した。 3:生活指導、交通指導がおこなわれ、問題行動、交通事故がある程度減少した。 2:生活指導、交通指導がおこなわれたが、問題行動、交通事故が増加した。 1:生活指導、交通指導ができなかった。	3	各クラス担任を中心に問題行動が起こる前に十分な指導がされていることもあり、問題行動が近年減っている。月間目標に対する指導について、道徳教育とも関連させて昨年より充実したものになっている。 昨年、交通事故が多かったことを全校生徒に知らせ、交通事故防止の呼びかけを行った。若工祭前に交通事故が集中して5件起こったので、翌月の月間目標を「交通事故を0にする」として、意識して行動する生徒が93%いたこともあり、12月以降交通事故が起きていない。	・交通事故の原因を把握し減少するよう努めてほしい。 ・問題行動が減少してようであるが、生徒が幼くなり狭い枠の中におさまってしまう、生き抜く力が弱くなっているのではないかと心配している。 ・生徒が将来の夢を語るような学校になればよいと思う。	3
	教育相談	・面談週間を設け、個人面談を実施して生徒とのよりよい人間関係づくりをしていく。 ・スクールカウンセラーとの情報交換を密にすると共に、毎週学年会を開き、生徒の変化を早期に発見し、対応する。 ・不適応・不登校生徒への早期対応	4:個人面談、学年会での情報交換、生徒への声掛け等、適切な指導ができた。 3:個人面談、学年会での情報交換、生徒への声掛け等、指導が概ねできた。 2:個人面談、学年会での情報交換、生徒への声掛け等、指導があまりできなかった。 1:個人面談、学年会での情報交換、生徒への声掛け等、指導ができなかった。	3	面談週間等で個人面談を実施している。スクールカウンセラーとの情報交換を密にしながら生徒の変化を早期に発見し、対応することができている。SHRや授業において、クラスの良いところを積極的に声掛けていった。	・生徒の個性を重視した指導を継続してほしい。	3

進路指導	・職業観・就業意識の早期醸成と卒業予定者全員の進路予定を目指す。 ・生徒自身の適性をより深く考えさせる進路指導を行う。 ・地元で就職する生徒が増えるための方策を行う。	・1学年全員参加のインターンシップを実施する。 ・希望進路が定まっていなかった生徒を中心に面談を行い、仕事に対する適性を考えさせる。 ・6月7月に行う生徒や保護者との面談を活用して進路情報を提供し職業理解を深める。	進路に関する学校評価アンケートの結果が 4:全ての項目で、前年度以上であった。 3:前年度より上昇した項目が多かった。 2:前年度より低下した項目が多かった。 1:全ての項目が前年度以下であった。	2	・生徒の学校評価は、全ての項目において前年度以上だった。全体としては、前年度より上昇した項目が多かったが、保護者の評価では前年度より下がった項目があった。 ・内定後に進路変更した者や、進路が決まらない生徒がいた。 ・今年度は、3者面談が7月末と例年より早かったため、希望進路を考える時間が不足していたのではないだろうか。	職業理解を深めるなどの取組はされているので評価は3で良いと思う。	3
		・2年生に対して県内で生活する魅力などを、ガイダンスの中で説明する。 ・1学年した卒業生による講話を行い、地元で働く魅力を生徒に伝える。	4:就労場所が県内または、自宅通園圏の者が70%以上だった。 3:就労場所が県内または、自宅通園圏の者が60%以上だった。 2:就労場所が県内や自宅通園圏の者が50%以上だった。 1:就労場所が県内や自宅通園圏の者が50%以下だった。	3	・県内及び、自宅通園圏に就職した生徒の割合は、65.7%であり、昨年の64%とひかすくすと、約2ポイント上昇した。しかし、目標の70%には達しなかった。	県内定住も進んでいるようである。今後も努力してほしい。	3
特別活動	部活動や学校行事を通じて、豊かな人間性を育む。	・活動に工夫をこらしながら、部活動を通じて人間的な成長を促す。 ・生徒の自主性や積極性を高める生徒会活動の充実を図る。	4:部活動や学校行事、生徒会活動が充実し、大変効果があった。 3:部活動や学校行事、生徒会活動が充実し、効果があった。 2:部活動や学校行事、生徒会活動が充実したが、効果が薄かった。 1:部活動や学校行事、生徒会活動があまり充実しなかった。	3	・生徒会中心に生徒が自主的に学校行事に取り組んだ。 ・運動会等の学校行事を通じて、各クラスが団結して勝利を目指す中で「豊かな心と人間性を育む」ことができた。 ・生徒会役員を中心に、ボランティア活動に積極的に参加した。 ・部活動を通じて、集団の規律を守らせる事や個々に役割を与える事で協調性や責任感を養う事ができた。	ボランティア活動など、地域貢献に対する取組なども評価してほしい。	3
健康管理	安全・安心な学校生活を送ることができるよう、個々の健康状態を把握し、体力の向上のみならず、自己の健康維持・管理のできる能力の育成を図る。	・集団生活において安全・安心な活動が営めるように、組織体制の充実・強化を図り、情報交換に努める。 ・スポーツや保健の授業をとおして自分のからだの成長や変化に気がつける機会を設ける。	4:生徒が主体的に仲間と共に活動し、生活改善に積極的に取り組んだ。 3:生徒が仲間と共に活動し、生活改善に取り組んだ。 2:生徒が仲間と共に活動し、生活改善に取り組むことが概ねできた。 1:生徒が仲間と共に活動し、生活改善に取り組むことができなかった。	3	・生活環境やゲーム世代による影響が、年々「工業生らしさ」が薄らぎつつあり、保健体育の授業のみならず、屋外等の体育館利用を見ても以前ほどの活気は見られない。また、以前は見られなかったような場面で怪我や体の使い方が育っていない生徒の増加、危機管理能力の低下が気になる。夏休み前に保健委員が実施したアンケート結果を見ると、体に良い食事に対する意識や男女問わず筋肉トレーニングに励む姿など、自分のからだの成長や変化に敏感な生徒も見受けられる。部活動においても、定期的に身体計測を取り入れる部も増えてきた。食生活やスポーツ量、生活習慣がどのように自分のからだの成長と結びついているのか、仲間との活動を通じ、お互いを意識することで体も知識も育てていきたい。	工業生らしく、元気のよい生徒を育ててほしい。	3
業務改善	学校組織等	・各種会議及び委員会を同日で開催することや議題、報告連絡の精選、事前提示など必要な調整を行い、効率的に実施する。	4:全ての会議や委員会の効率的な開催や1時間以内の協議で実施ができた。 3:会議や委員会の効率的な開催がほぼできて、1時間程度の協議で実施ができた。 2:会議や委員会の効率的な開催はほぼできたが、協議は長時間の実施となった。 1:会議や委員会の効率的な開催ができず、協議も長時間の実施となった。	3	○達成度(4~1)が昨年より改善できた。引き続き、各種会議の効率的な実施等に取り組みたい。		3
	日常業務	・教職員と事務職員が互いの業務内容を共有し、相互の業務に配慮、協力できる。業務時間が30%以上削減できた。 3:関連した業務情報は共有し、相互の業務に配慮、協力できた。業務時間が15%以上削減できた。 2:関連した業務情報は共有できたが、一部の業務に配慮、協力できなかった。業務時間の削減が15%未満であった。 1:業務情報は一部しか共有できず、お互いの業務への協力は不十分だった。業務時間が増加した。	3	○達成度(4~1)が昨年より改善できた。 ○業務時間も1月末現在で平均20%減、80時間以上残業人数も延べ140人から62人と56%減少である。 ○年休も全教職員が5日以上取得、職員の77%が10日以上取得しており、引き続き業務改善に取り組みたい。			

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

①(学校全般)コミュニティ・スクール導入3年目の取組として、編巻き取り機やスマホスタンド、防災マップ、車いす補助器具の製作等「4科連携及び岩国市行政と一体となったものづくりによる地域貢献」を推進した。また、昨年度から面談週間を設け、生徒や保護者との意思疎通を密にした。アンケート結果においても、生徒・保護者とも満足度が高く、引き続き家庭や地域企業など社会と連携した教育の推進に努め、生徒の成長を支えたい。

②(学習指導)アクティブ・ラーニングやICTを活用した指導など、教職員が学ぶ機会を設け、研究授業等で協議した。また、資格取得者が3年連続増加し、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化についても改善しつつある。

③(生徒指導)いじめに至るケースが数件有り、その他日常的なトラブルも発生しているため、引き続きマナー・ルールとあわせて心の教育の推進をしていく。また、最近の生徒指導は教育相談的な内容の問題が多くなった。SCや他の関係機関と連携し、不安定な生徒についての支援を行った。

④(進路指導)キャリア教育として行っている講話、インターンシップ、PTA研修会、個人面談等の取組を行うなど、マッチングを促進することにより地元で就職する生徒が増加した。ただし、就職決定後に進路変更が複数あり、ガイダンスの充実を図る必要がある。

⑤(特別指導)昨年に引き続きハンドボール、フエニング、陸上は全国大会に出場した。その他の部活動においても中国大会や県の上位に進出するなど成果をあげた。また、日米交流やボランティア活動等を積極的にに行い、多数の生徒が参加し地域との関わりをますます深めた。

⑥(健康管理)体力や危機管理能力の低下が見られる。健康の維持管理についても二極化が見られ、食生活やスポーツ量、生活習慣がどのように自分のからだの成長と結びついているのか、今後資質や能力を様々な場面で育てる取組を実行したい。

7 次年度への改善策

①(学校全般)コミュニティ・スクール導入4年目の取組として、「4科連携及び岩国市行政と一体となったものづくりによる地域貢献」をより一層充実させ、今まで取り組んできた課題を完成させたい。また、家庭や地域企業など社会と連携し生徒の成長を図りたい。

②(学習指導)研修の機会を設け、教員の授業力及び生徒の理解力・思考力の向上を図りたい。また、機会あるごとに資格取得の意欲を喚起し、様々な資格に積極的に挑戦するなど、自己効力感の醸成や基礎学力の定着、家庭学習の習慣化を図りたい。

③(生徒指導)昨今、教育相談的な指導が必要なケースが多くなったためより一層組織的に対応し、SCや他の関係機関との連携を深めながら、生徒や保護者の困り感の解消に向け支援を充実させたい。

④(進路指導)引き続きキャリア教育として行っている講話、インターンシップ、PTA研修会、個人面談等の取組を行い、職業観や勤労観の醸成に努め、地元で就職する生徒の増加及び進路決定後の進路変更がないようガイダンスをより一層充実させたい。

⑤(特別指導)部活動においては、各部活発に活動し成果を上げているが、教職員や生徒の健康面等を考慮し、引き続き効率的な部活動指導を図る。また、日米交流、ボランティア活動等も積極的に、地域との関わりを深めながら地域貢献を図りたい。

⑥(健康管理)体力向上及び健康の維持・管理を図る態度を継続的に育成する。また、生涯スポーツの楽しさや健康面への影響を機会あるごとに伝え、将来を見据えて運動に親しむことができるように様々な場面で取組を行う。